１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期連結累計期間の経済情勢は、米国では緩やかな回復が続いたものの、欧州では低迷が続き、アジアでも中国で景気の拡大テンポが減速するなど、世界経済は力強さを欠きました。一方国内経済は、復興需要の本格化に加えて円安による輸出改善効果もあり、景気は持ち直しの動きがみられたものの、依然として不透明な環境が続きました。

当社グループは、当期を初年度とする三カ年の中期経営計画「Change & Challenge － 更なる成長に向けて － 」において、３つの基本方針「持続的成長を可能にする収益基盤の強化」「グローバルでのグループ力の最大化」「資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献」を掲げ、構造的な事業環境の変化にもスピード感を持って対応すべく、各事業課題の解決に向けて取り組んでまいりましたが、いまだその成果が出るには至っていません。

この結果、当社グループの連結売上高は前年同期に比べ２千６百万円増の３，１０８億１百万円、連結営業利益は７１億１千１百万円減の９０億７千７百万円、連結経常利益は７９億３千５百万円減の６７億４千１百万円、連結四半期純利益は１７億８千４百万円減の６６億７千７百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結四半期純利益
当第２四半期	３，１０８億円	９０億円	６７億円	６６億円
前 年 同 期	３，１０７億円	１６１億円	１４６億円	８４億円
増　減　率	０．０％	△４３．９％	△５４．１％	△２１．１％

セグメント別の概況は以下のとおりです。

化成品・樹脂セグメント

ナイロン原料のカプロラクタムは、中国での相次ぐ他社新設備稼働開始に伴う供給過剰により市況の低迷が続くとともに、タイ国工場における設備トラブル等もあり出荷が減少しました。ポリブタジエン（合成ゴム）も、ナフサ市況が高止まりする中、原料であるブタジエン市況の大幅な下落に連動し製品価格が低下したため、採算が悪化しました。ナイロン樹脂、工業薬品は総じて堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ３億８千６百万円増の１，０９７億５千７百万円、連結営業損益は５９億８千３百万円減の２０億９千３百万円の損失となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当第２四半期	１，０９７億円	△２０億円
前 年 同 期	１，０９３億円	３８億円
増　減　率	０．４％	－

機能品・ファインセグメント

リチウムイオン電池用の電池材料については、電解液の出荷が前年同期比で減少に転じ、またセパレーターは出荷が伸長したものの大幅な価格の下落に見舞われました。ファインケミカル製品や電子情報材料分野をはじめとするその他の機能性材料は、需要回復傾向にある製品が見られるものの、出荷は依然として低調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ１億円減の３２０億４百万円、連結営業利益は１３億７千７百万円減の４億８千７百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当第２四半期	３２０億円	４億円
前 年 同 期	３２１億円	１８億円
増　減　率	△０．３％	△７３．９％

医薬セグメント

自社医薬品の原体の販売については、特許期間が満了した製品もあり、出荷は前年同期を下回り、また受託医薬品の原体・中間体の販売も低調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ１５億３千万円減の４１億６千２百万円、連結営業利益は１４億６千万円減の４億８千８百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当第２四半期	４１億円	４億円
前 年　同 期	５６億円	１９億円
増　減　率	△２６．９％	△７４．９％

建設資材セグメント

セメント・生コン及び建材製品は、復興需要が本格化するとともに公共投資が堅調に推移し、マンション・住宅着工も持ち直してきたことから、出荷が前年同期を上回り、輸出採算も改善が進みました。各種廃棄物の原燃料へのリサイクルも堅調でした。カルシア・マグネシア製品の出荷は、鉄鋼、電子情報材料向け需要の低迷により低調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ５４億７百万円増の１，０６９億４千２百万円、連結営業利益は２２億３千９百万円増の６８億２千１百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当第２四半期	１，０６９億円	６８億円
前 年　同 期	１，０１５億円	４５億円
増　減　率	５．３％	４８．９％

機械・金属成形セグメント

竪型ミルや運搬機等の産業機械は、国内外メーカーとの価格競争の激化等により厳しい受注状況が続いており、出荷が前年同期を下回りましたが、自動車産業向けを中心とする成形機は、新機種の市場への浸透が進み、日系ユーザーの新興国・北米向け新設、増設案件を中心に出荷が好調でした。機械サービスも堅調に推移し、また、製鋼品は受注環境が厳しい中、出荷は堅調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ４億７千３百万円増の３４８億３千８百万円、連結営業利益は７億６千万円増の２３億９千１百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当第２四半期	３４８億円	２３億円
前 年　同 期	３４３億円	１６億円
増　減　率	１．４％	４６．６％

エネルギー・環境セグメント

石炭事業は、販売炭の売上数量が配船時期のずれにより減少し、また、預り炭も主要顧客の電力会社で石炭火力発電所の定期検査が行われたことなどにより、コールセンター（石炭中継基地）での取扱い数量が前年同期を下回りました。電力事業は、ＩＰＰ発電所の定期検査及びその後の設備トラブルにより売電量が大幅に減少しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ７６億８千６百万円減の２７７億５千９百万円、連結営業利益は２０億７千７百万円減の６億２千２百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当第２四半期	２７７億円	６億円
前 年　同 期	３５４億円	２６億円
増　減　率	△２１．７％	△７７．０％

その他のセグメント

その他の連結売上高は前年同期に比べ１５億３千５百万円増の１３９億１千９百万円、連結営業利益は１千２百万円増の４億５千４百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当第２四半期	１３９億円	４億円
前 年　同 期	１２３億円	４億円
増　減　率	１２．４％	２．７％

（２）財政状態に関する説明

当第２四半期末の総資産は前年度末に比べ、商品及び製品などのたな卸資産が９５億１千７百万円、有形固定資産が１５億８千７百万円、投資その他の資産が１７億５千２百万円増加した一方、現金及び預金が８１億３千９百万円、受取手形及び売掛金が６４億５百万円減少したことなどにより、２７億４千６百万円減少し６，８３１億３千８百万円となりました。

負債については、未払法人税等が３０億５千６百万円、その他の流動負債が６０億２百万円減少したことなどにより、１０６億５千３百万円減少し４，２４４億７千８百万円となりました。

純資産は、宇部マテリアルズ株式会社を株式交換により完全子会社化したことなどにより、少数株主持分が１２２億８千５百万円減少し、資本剰余金が９９億２千４百万円増加しております。また剰余金の配当により利益剰余金が５０億３千５百万円減少しましたが、四半期純利益により利益剰余金が６６億７千７百万円増加、為替換算調整勘定が９１億７千万円改善したことなどにより、７９億７百万円増加し２，５８６億６千万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の経済情勢につきましては、国内の景気回復が期待されるものの、中国経済の先行きなど、世界景気の下振れも懸念され、事業環境は予断を許さない状況が続くことが見込まれます。

こうした情勢を踏まえ、通期の業績予想につきましては、平成２５年９月３０日に公表しましたとおり、売上高６，４７０億円、営業利益２６０億円、経常利益１９５億円、当期純利益１２５億円を見込んでおります。

（４）当四半期の連結業績予想と実績値との差異に関する説明

当第２四半期連結累計期間の業績について、平成２５年９月３０日に公表しました業績予想と下記のとおり差異が生じております。

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	３，１３０億円	８０億円	５０億円	５０億円	４円９０銭
実　績　値（B）	３，１０８億円	９０億円	６７億円	６６億円	６円５４銭
増　減　額（B－A）	△２２億円	１０億円	１７億円	１６億円	
増　減　率	△０．７％	１２．５％	３４．０％	３２．０％	
(ご参考)前期第２四半期実績 (平成25年３月期第２四半期)	３，１０７億円	１６１億円	１４６億円	８４億円	８円４２銭

（差異の生じた理由）

徹底したコスト削減等の収益改善努力に加え、営業外損益も改善したため、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに、前回発表予想を上回りました。